

地理 2 世界のすがた 1 - 解説 -

オランダの運河

写真は、オランダの首都アムステルダム市内を俯瞰したものである。写真の左上にわずかに写っているものを含めて、4本の川が平行して流れているが、同じ角度で曲がり、同じ幅をもっていることに着目させ、人工的な水路であることに気づかせたい。

アムステルダムは、13世紀に交易の中継都市として成立した。その後、17世紀にはオランダ連合東インド会社が設立され、世界的な交易によってもたらされる富が集積する一大中心地となった。

写真の運河は、16世紀の後半に開削されたものである。旧市街を取り巻くように、新市街が同心円状に建設された様子を読み取ることができる。現在のアムステルダムの町並みは、この時期の都市計画が原型となっている。

★授業での使いかた

世界の国々の地域的特色を調べる単元全体の導入で提示し、1枚の景観写真からでも多くの手がかりを得られることに気づかせたい。また小学校6年生の歴史の学習で、江戸幕府は対外政策として鎖国をとる一方で、長崎の出島においてオランダと交易を行っていたことを思い出させると、興味をもたせる上で効果的である。

生徒へのアプローチ例 - こんな発問が効果的！

- この写真を見てみましょう。これはある国の首都で、住宅街を斜め上空から撮影したものです。この町の様子で、特徴的だと思うところはどこでしょうか。
- どこの国でしょうか。なぜそう思ったのでしょうか。